

目 次

高次脳機能障害の基礎知識

高次脳機能障害とは	P 1
高次脳機能障害の方の特徴と対応の基本	P 2
高次脳機能障害の変化と回復	P 2
福祉サービスの利用	P 2
高次脳機能障害の主な症状と対応のヒント	P 3
東京都における高次脳機能障害者支援の取組	P 4

関係機関

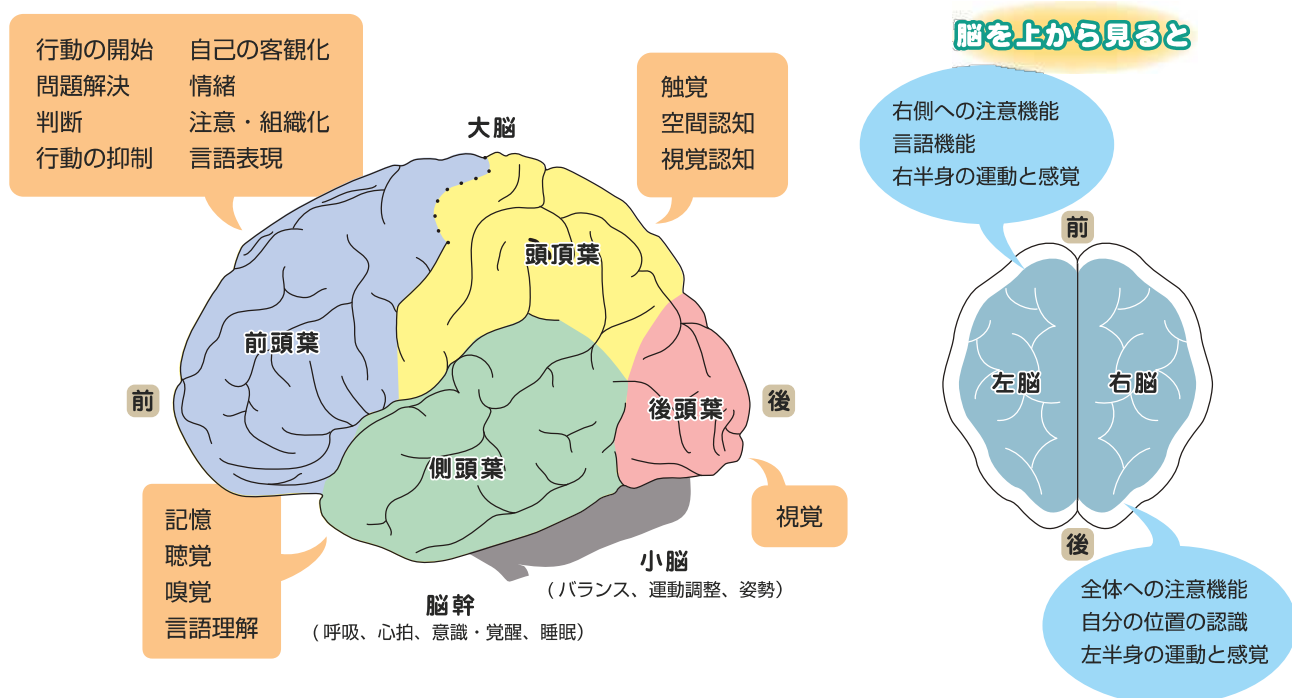
相談窓口	P 5
入所施設	P 16
就労支援機関	P 17
医療機関	P 20
主として都内で活動中の高次脳機能障害の当事者・家族会	P 28

高次脳機能障害の基礎知識

高次脳機能障害とは

高次脳機能障害とは、病気や交通事故など、様々な原因によって脳に損傷をきたしたために生じる、言語能力や記憶能力、思考能力、空間認知能力などの認知機能や精神機能の障害を指します。

日常生活面では、例えば、今朝の朝食の内容が思い出せなくなった（記憶障害）、仕事に集中できなくなった（注意障害）、計画が立てられなくなった（遂行機能障害）、言葉が上手に話せなくなった（失語症）、人の話が理解できなくなった（失聴症）、歯ブラシの使い方が分からなくなった（失行症）、道に迷うようになった（地誌的障害）、左側にあるおかずが目にとまらず残してしまうようになった（左半側空間無視）など、様々な症状がみられます。



高次脳機能障害の方の特徴と対応の基本

特徴

- 病気やけがの前のことはよく覚えているが、新しいできごとを覚えられない。
- 集中力が続かない。気が散りやすい。複数のことを同時にできない。
- 計画を立てられない。段取りよく、家事や仕事等を進められない。
- 感情や欲求のコントロールができない。
- 些細なことで怒りやすい。意欲がわからない。
- 片側の空間にある人や物、文章を見落としてしまう。
- 話を理解できない。話そうとしても言葉が出てこない。
- 文字を読めない、書けない。
- とても疲れやすくなる。



対応の基本

- 受傷後、日常生活や対人関係、仕事等がうまくいかず自信をなくし、混乱や不安の中にあることを理解し、本人の話をよく聞きましょう。
- これまでの生活や人生観などを尊重した関わりをもつようにしましょう。
- 本人の疲労に配慮しましょう。
- 継続した長期間の支援が必要です。

具体的には

- ゆっくり、わかりやすく、具体的に話します。
- 何かを頼むときには一つずつ、具体的に示します。
- 情報は、メモに書いて渡し、絵や写真、図なども使って分かりやすく伝えます。
- 手順を簡単にする、日課をシンプルにする、手がかりを増やすなど環境の調整をすることが大切です。
- 疲労やいらいらする様子がみられたら、一休みして気分転換を促すようにします。

高次脳機能障害の変化と回復

- ・何年もかけてゆるやかに変化していきます。回復の状況によっては、再び職業生活に挑戦することもできます。
- ・人それぞれ違う障害の特徴を、周囲が理解しサポートする必要があります。
- ・思いがけない病気や事故による障害のため、本人や家族にとって、以前との違いを理解し受け止めるのに時間がかかります。

できないことより
できることをみつけよう

あせらずゆっくり、
生活の中でリハビリを

福祉サービスの利用

後遺症の状況によっては障害者手帳や診断書を取得して、さまざまな福祉サービスを利用することができます。障害者手帳に該当するかどうかの基準や手続は、それぞれの障害者手帳制度により決まっています。

脳の損傷による後遺症



手足のまひや言語、視野の障害があるとき	身体障害者手帳
発達期（18才未満）に受傷した場合	愛の手帳
記憶や注意、遂行機能、社会的行動の障害があるとき	精神障害者保健福祉手帳

高次脳機能障害の主な症状と対応のヒント

脳の損傷部位や程度により、症状の程度や現れ方は人それぞれに違います。また、下記の症状を複数併せ持つ場合が多いです。できないことに着目するのではなく、何ができるかに着目し、残存機能をどう活かすか、代償手段をどう使えばよいかを考えます。受傷（発症）前の生活習慣や嗜好、生活経験などを尊重した対応方法が望まれます。

記憶障害

- ☐ 新しいできごとが覚えられない。
- ☐ 約束や作業の手順等を思い出せない。

- ・スケジュール帳やカレンダー、タイマー、IT機器等の代償手段を検討する。
- ・大事な物や日常的に使用する物の置き場を決めておく。
（収納棚等には、内容物が分かるように表示をする。）
- ・手順書等のヒントを活用し、繰り返し練習する。

注意障害

- ☐ 集中力が続かない。
- ☐ 単純な作業でもミスが多い。
- ☐ 複数のことを同時にできない。

- ・注意を維持できる範囲・時間内で作業を終え、休息を十分にとる。
- ・作業をするときや大事な話をするときは、刺激の少ない環境で行う。
- ・声かけで注意を促し、できたときは大いにほめる。
- ・興味のある作業から始めて、集中できる時間を増やしていく。

遂行機能障害

- ☐ 計画を立てられない。
- ☐ 段取りよく、家事や仕事等を進められない。
- ☐ 物事の優先順位がつけられない。
- ☐ 行動に要する時間等の見当がつけられない。
- ☐ 間違えたときの修正や急な計画の変更に対応ができない。
- ☐ 指示がないと次にすべき行動がわからない。

- ・1日のスケジュールや生活環境はシンプルに整理する。
- ・指示は、5W1Hで明確に、具体的に伝える。
- ・予定の内容は、事前によく説明をする。
- ・説明や指示内容は、メモをしてもらうかメモを渡す。
（メモの内容については、要点、主旨の再確認をする。）
- ・困ったときに、相談する人や対応方法を決めておく。
- ・作業は、手順書を見ながら確認して行う練習をする。

社会的行動障害

- ☐ 感情や欲求のコントロールができない。
- ☐ 些細なことで怒りやすい。
- ☐ 意欲がわからない。
- ☐ 依存的・退行的な言動がある。
- ☐ 物事にこだわりやすい。

- ・環境の変化やマイナス感情への対処が困難で、ストレスをためやすいことを周囲が理解する。
- ・混乱なく安心して過ごせるように、生活環境を整える。
（行動の手がかりが多い環境づくり）
- ・疲労に配慮をし、疲れる前に休息を取るように促す。
- ・イライラしたら、場を変えて相手との距離をとる。
- ・守るべきルールや本人の行動（使ったお金や食べた量など）は、確認しやすいように書面など見える形で提示する。
- ・意欲の低下がある場合は、興味が持てる簡易な作業から始める。
- ・行動のきっかけに、アラーム等を活用する。

半側空間無視

- ☐ 片側の空間（多くは左側）にある人や物、文章を見落としてしまう。

- ・無視側の文の始まりや、テーブル、お盆の端に目印を付けて、無視側への注意を促す。
- ・無視側を意識して、見渡す習慣をつける。

失語症

- ☐ 話を理解できない。
- ☐ 話そうとしても、言葉が出てこない。
- ☐ 文字を読めない、書けない。

- ・ゆっくりと短い言葉で一区切りずつ、話の内容を確認しながら話す。
- ・図や写真、ジェスチャーを活用する。
- ・家族などに伝えやすいように、大事な用件はメモに書いて渡す。

東京都における高次脳機能障害者支援の取組

1 東京都心身障害者福祉センターにおける取組

東京都では、平成18年度から東京都心身障害者福祉センターを支援拠点機関として、高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、広報・普及啓発としてパンフレット等の作成、支援に携わる方々を対象とした研修会等を開催し、人材育成に取り組むとともに、区市町村における相談支援体制や機関連携などのネットワークの構築を進めています。

また、地域の支援機関（就労支援センター、福祉事務所、就労支援事業所等）からの依頼に基づき、短期間の通所を通して、生活管理面、対人技能面等の評価と課題の整理などを行う「社会生活評価プログラム」や、職業評価、グループワーク等を組み合わせた「就労準備支援プログラム」を実施し、高次脳機能障害のある方の社会参加に向けた支援に取り組んでいます。

2 二次保健医療圏域における取組

高次脳機能障害は、ゆるやかな回復過程をたどるため、医療・福祉・介護等が長期間にわたり継続して連携を取りながら支援していく必要があります。そのため、区市町村単位で完結することが難しい医療機関との連携体制の構築を目的として、二次保健医療圏域ごとに高次脳機能障害者のリハビリテーションにおける中核医療機関を中心とした「専門的リハビリテーションの充実事業」を、平成22年度から実施しています（下図参照）。現在では全ての圏域で取り組まれています。

圏域内では、高次脳機能障害に携わる支援員などの技術や知識の向上を目的とした症例検討会や研修会の実施、圏域内連携体制の構築を目指す連絡会の開催等により、支援ネットワークの充実を図っています。

3 区市町村における取組

区市町村においては、相談支援の実施、介護・障害福祉サービス事業者や就労支援センター等の関係機関との連携による地域支援ネットワークの構築等を目的とした「区市町村高次脳機能障害者支援促進事業」を平成19年度から実施しています。令和5年度現在、45区市町で取り組まれており、区市町村における体制整備も着実に進んでいます（5ページ「相談窓口」参照）。

専門的リハビリテーションの充実事業 二次保健医療圏域と受託医療機関

